

## 令和6年度 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時： 令和6年11月28日(水) ・会議 15:00～16:30

2 会場： 本館3階 会議室

3 出席者：

《学校運営協議会委員》

- ・上原 幸作 (TOTO 茅ヶ崎工場長) ・北島 栄二 (国際医療福祉大学学科長)
- ・高橋 里幸 (同窓会理事長) ・廣瀬 香夜乃 (全日制 PTA 会長)
- ・藤城 真由美 (定時制 PTA 会長)

《本校職員》

- ・校長 ・副校長 ・全日制教頭 ・定時制教頭 ・事務長
- ・総括教諭 (全日制4名、定時制2名)

4 議事： (司会は副校長)

(1) 校長挨拶

全日制はインクルーシブ教育実践推進校としての取り組みを継続しており、定時制は本年度の入試を最後に募集停止という状況である。コロナ禍以降、新たな取り組みを取り入れながら活動している。

(2) 上原委員挨拶

コロナ禍をこえて新たに交流などの活動ができるとよい。

(3) 令和6年度の取り組み 中間報告 (各グループの総括教諭より)

○全日制

●学習支援グループ

- ・探究活動で1年は「探究ナビ」、2年は「ENAGEED」を活用して推進している。
- ・「主体的な学びの時間」では新たに1年に「駿台 atama+」を導入し、基礎学力の定着を図る。
- ・授業見学週間を設定し、お互いに授業を見学し、授業改善につなげる。平素より、授業を見学したり情報交換したりする雰囲気が校内にあり、それらをうまく授業改善につなげていきたい。

●進路支援グループ

- ・デジタル版模試「駿台 atama+」の導入は、生徒の学習意欲の向上につながったが、来年度以降の新教育課程では実施が難しく、来年度の実施は見合わせる。
- ・今年度の進路活動が始まっており、一般就職、公務員や総合型選抜入試など結果が出てきている。大学入学共通テスト受験者が70名程度で少なめである。
- ・看護系進路への希望者が微増、専門職大学や大学校など新しい形の学校への進学も増えている。

- ・総合型選抜や公募性推薦で受験する生徒が増加しており、その指導や点検作業が大変である。
- ・生徒が「上級学校を知る」機会を増やすための取り組みを進めている。

#### ●生徒支援グループ

- ・1年生の連携生は教室に馴染んでおり、リソースルームに来る頻度が少ない。
- ・登校指導を実施している。  
→人に何かを伝えるときは、優しく共感をもって伝えていく必要がある（委員より）
- ・「道路交通法改正」についてポスターやメール配信で周知した。
- ・いじめアンケートを5月に実施、次は1月に実施予定

#### ●生徒会活動支援グループ（総括教諭が欠席のため、副校長より報告）

- ・体育大会、文化祭、ナイトハイクなどの行事が無事に終わった。
- ・球技大会、合唱祭が残っており、準備を進めている。

#### ●地域連携グループ

- ・7、10月の学校説明会に1500名を超える来場者に参加いただいた。案内役は生徒の協力で実施しており、来場者には好評であった。
- ・部活動体験（8月）を新たに実施し、約100名が参加した。生徒と交流できて良い機会であった。
- ・特別募集の志願者向けの中高連携事業説明会の実施  
インクルーシブ教育の内容を知ってもらうために近隣中学校に説明に行っている。
- ・ボランティア同好会や運動部が中心となり、近隣の清掃活動を実施した。

#### ●管理運営グループ

- ・防災訓練は、職員が教室にいない状況を想定して訓練を実施した。
- ・今後、外部講師を招いてDIG訓練を実施する予定である。
- ・ネットワーク関連の業務など、新たな業務への対応が課題である。

#### ○定時制

##### ●学習支援グループ

- ・令和7年度の入試を最後に募集停止となる。生徒の卒業に向けて早めの対応で支援していく。
- ・ICTの活用、ペアワークやグループワークの導入について、研修会を通して情報を共有した。
- ・今後、職員数や予算が減っていく中、いかに充実した教育活動を継続していくか、教員間で協力して検討していく。

##### ●生徒支援・総務グループ

- ・学校を安心できる場所にしていきたい。授業など熱心に取り組むが、人間関係を築くことに苦手を抱えている生徒が多い。生徒の心理的負担を軽減しながら指導を進めていきたい。
- ・自転車乗車時のヘルメット着用を推進しているが広がらない。継続して取り組んでいきたい。

- ・茅ヶ崎支援や藤沢支援の専門員に来校いただき、生徒への対応について指導いただいた。
- ・卒業予定者が少なく、個別によく対応することができている。
- ・アルバイト経験を通して、社会の一員として多く学び、成長する様子が見られる。
- ・横浜市立大学病院の医師を講師に招いた研修を2回行った。

#### (4) 質疑応答など

##### ○進路指導について

Q：進路の割合はどのような様子か

A：進学が9割以上、大学が6割、専門学校が2割、就職は連携生を含め10名程度

Q：生徒は就職を考える場合、どのような視点で就職を考えるのか

A：全日制の就職希望者は人と関わるサービス業が多い、大学進学は情報系が増えている印象である。定時制はやりたいことや、近隣での就職など、自身のこだわりがある場合もある。

○指定校推薦や総合型選抜などで進路を決める生徒が多く、自分たちの頃から受験が変化していることを感じる。就職では、勤務地や給与などの待遇が進路決定に大切なのではないか。

(副校長) 高校生はどのような仕事があるかを知らない。仕事の中身を知るような機会を設けるためにご支援いただくと助かる。

○仕事の中身などを説明する機会では、協力できそうである。企業としても、生徒たちと触れて、就職に向けて彼らが大切にしていることなどを知りたい。

○大学としても、協力できる場所がありそう。看護はイメージがしやすいが、理学療法士や作業療法士の仕事は、イメージができない生徒も多い。

Q：共通テストの受験者が多くないとあったがなぜか

A：生徒たちにとって共通テストは国公立受験のイメージが強いかもしれない。また、私立大の共通テスト利用入試は合格枠が少なく、本校生徒の受験者数が増えない要因になっていると考える。

Q：特別募集で入学する生徒の就職指導はどのような様子なのか

A：本人、保護者の思いや要望に寄り添いながら決めていくことになる。

##### ○その他

○探究活動で地元企業に来てもらい課題提示してもらって探究に取り組む活動がある。そういうものを参考にしても良いと思う。

○今回の報告は取組みについてわかりやすかったが、その取組みがどのような結果につながった、今後どうしていくのかということをお願いしたい。

Q：夏は体育館がかなり暑いと思うが、エアコンはあるか。TOTOの体育館は避難所として利用する可能性があることを鑑みて、エアコンの設置を検討しようと考えている。茅ヶ崎高校は避難所かではないのか？

A：熱中症への対応は学校としても悩んでいる。本校も広域避難所として指定されているので、夏に

災害があるとかなり厳しい環境になると想定される。県としても、体育館のエアコン設置について少しずつ議論が始まっている、今後考えていく必要がある。

Q：まなびや基金などの仕組みは活用できるのか

A：まなびや基金も含め、どのように進めるのが良いか今後検討していく。

#### (5) 事務連絡

- ・次回、第3回学校運営協議会は3月頃の予定。